

◎療育の経費

療育事業	【 発達支援室 】
-------------	------------------

【総合計画上の位置づけ】

健やかで心豊かに暮らせるまち
健康福祉:すべての市民が健康で安心して生活を送ることのできる環境が整っているまち

【事業の目的】

- 対象 おおむね18歳までの障害児等
意図 ライフサイクルにそって、その時々に必要な相談及びサービスを利用できるようにするため。
効果 安心して生活できるよう、一体的、総合的にサービスの提供体制を調整・整備する。

【事業の内容】

- (1) 療育システム推進事業
- ・発達障害を含む障害の相談及び障害の早期発見、早期発達支援について保健、福祉、教育等と連携を図った支援を行った。
 - ・おおむね高校生までの障害のある子どもを持つ家族の一時的介護負担軽減や余暇活動などを行う事業所に補助金を交付した。
 - ・障害児放課後・余暇支援事業を行う「障害児活動支援センター」の効率かつ効果的運営を図るため、施設の運営を指定管理者に委託した。
- (2) 特別支援保育助成事業
- ・障害児等を受け入れている幼稚園に対して運営費を補助した。

【中事業に含まれる実施計画事業】

- 障害児放課後・余暇支援事業の推進(4-1-2-⑥)
発達障害児者への支援(4-1-2-⑨)

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
45,794	42,637	41,716		921

主な支出内訳

<ul style="list-style-type: none"> ・療育システム推進事業 <ul style="list-style-type: none"> 訓練指導嘱託員報酬 16,521 理学療法士 3人 言語聴覚士 6人 臨床心理士 4人 保育士 3人 嘱託医報酬 791 小児神経科医師 1人 障害者サービス検討委員会委員報償費 187 講演会等講師謝礼 150 障害児放課後・余暇支援事業委託料 9,450 障害児放課後・余暇支援事業補助金 9,542 ・特別支援保育助成事業 <ul style="list-style-type: none"> 特別支援保育運営費補助金 2,919

療育システム推進事業

事業名	実施状況
療育相談事業(新規相談のみ)	70 人
母子グループ指導	50 人 (延634人)
巡回療育相談事業(幼稚園・保育園等)	96 回 (延214人)

障害児保育助成事業

事業名	対象園	人数
障害児保育運営費補助金交付事業	10 園	16 人

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 健福-30 療育事業 □支援部門						
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	0030 療育システム推進事業					
		1060 療育システム推進事業					
		1218 特別支援保育助成事業					
主管課	障害者福祉課(発達支援室)	関連課	市民健康課・保育課・教育指導課・こども相談課・こどもみらい課				
分野名	健康福祉						
目標 (目標値)	障害児(者)に対する地域生活支援体制の充実を図る						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考 ・各年4月1日		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人			
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
運営資源 状 況	決算値	41,716千円	36,598千円	30,642千円			
	(国・県)						
	(負担金等)						
	(一般財源)	41,716千円	21,052千円	30,642千円			
	人員配置数	3.9人	3.7人	4.0人			
	人件費	36,634千円	35,229千円	38,129千円			
協働の パートナー	鎌倉市障害児等放課後・余暇支援の 会(社福)ほしづきの里	鎌倉市障害児等放課後・余暇支援の 会(社福)ほしづきの里	鎌倉市障害児等放課後・余 暇支援の会				
事務事業 運営経費	総事業費	78,350千円	71,827千円	68,771千円	18年度 1,950人 19年度 2,262人 20年度 3,893人 20年度の対象者につい てはひよこグループの延 べ人数634人をプラスす る。		
	市民1人当 りの経費	444円	408円	393円			
	対象者1人 当りの経費	20,126円	31,754円	35,267円			
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※		
					※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)		
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
療育相談新規受付件数	◎	目標値					
		実績値	68人	70人			
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
巡回療育相談延人数	◎	目標値					
		実績値	延210人	延222人			
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
障害児放課後・余暇支援 事業利用者延人数	◎	目標値					
		実績値	延1448人	延2951人			
指 標	評価	年度		20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
特別支援保育運営費 補助金交付対象児実人 数	△	目標値					
		実績値	24人	16人			
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している							
ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名	鎌倉市	平塚市	藤沢市	小田原市	茅ヶ崎市		
療育相談件数	70件	130件	246件	63件	2590件		
グループ指導	76人	(実)71人	(実)183人	(実)68人	(実)89人		
巡回相談	(延)222人	(延)300人	(延)157人	(延)30人	(延)501人		
特別支援保育助成	10園16人	8園10人	27園48人	—	1園2名		

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ①相談・支援体制の整備：平成21年度に発達支援室が開設されることを前提とした、相談窓口の整備、相談から処遇の流れの整備 ②5歳児すこやか相談の事後支援の体制作り：5歳児すこやか相談実施後の具体的な支援のあり方とその人材の確保 ③発達障害などの理解促進のための市民啓発
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) ①平成21年4月の発達支援室開設にむけ、課内で相談窓口のあり方や、相談から処遇への流れなどについて検討した。 ②5歳児すこやか相談実施初年度として、実施園を含めたワーキンググループやスタッフによる具体的な実施方法の検討を重ねながら実施した。市内の幼稚園・保育園3園の75名を対象に実施し、新たに支援が必要と思われる児童は15名であった。 ③発達障害理解促進のために、全体向けの講演会の他、幼稚園、保育園の職員及び保護者を対象とし、園に講師を派遣しての講演会を実施した。
	未解決の課題・問題点	①相談・支援体制の充実：学齢児童に対する相談・支援体制の整備 ②5歳児すこやか相談の実施により、要支援児の増加が見込まれることから、事後支援のための人員を含めた支援体制の整備
	今後の方針 (対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) ①特別な支援を必要とする学齢児童への、具体的な支援のあり方について、教育委員会とも連携し、取り組む。 ②5歳児すこやか相談の全園実施にむけて、実施方法の見直しや、支援体制の整備を行う。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	発達支援室を設置したことにより、特別な支援を必要とする方のライフステージに応じた一貫した支援を推進していく。 相談及び発達支援等の利用状況をふまえて、職員体制を検討していく必要がある。		
担当課長氏名:	発達支援室長 安田 明		

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	特別な支援を必要とする方のライフステージに応じた一貫した支援を推進していくため、効果的で効率的な支援体制を検討するとともに他の施設整備計画に合わせて拠点施設整備を検討する。		
担当部名	こどもみらい部	部長名	岡部 富夫